第105期

事業報告書

平成17年4月1日▶平成18年3月31日

日本をおいしくする

SHOWA

昭和産業株式会社

証券コード●NO.2004●

第105期連結決算ハイライト

当期におけるポイント

減収・増益
・販売数量減少により売上高は減少するも、高付加価値品販売拡大・原価率低減等により増益。

事業別の状況
・食品事業：製粉・油脂・家庭用食品は販売数量・販売価格の低下等で収益悪化。
糖化製品の売上は堅調だったものの、食品事業全体としては若干の減益。
・飼料事業：鳥インフルエンザの影響で配合飼料売上高減少するもコスト削減効果（飼料生産の外部委託）等により増益。
・倉庫事業：サイロ荷役量・保管積数増加により増収も営業利益はやや減益。
・その他事業：札幌マンション販売が前期で終了し減収・減益。

固定資産減損会計導入ほか特別損益計上
・鶴見工場跡地の一部売却により売却益11億円を計上。
・厚生施設・遊休土地の減損損失を3.5億円、固定資産除却損７億円、
子会社整理引当損約7億円ほか、合計約19億円の特別損失を計上。

連結業績の推移

■売上高（百万円）

■経常利益（百万円）

■当期純利益（百万円）

株主の皆様へ

代表取締役社長
福井茂雄

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申しあげます。ここに第105期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）の事業概況をご報告申しあげます。

当期の我が国経済は、雇用や個人消費の着実な回復により内需が堅調に推移し、また、企業収益の大幅な改善に伴い設備投資も増加するなど、本格的な景気回復基調が強まりました。

しかしながら食品業界におきましては、原油価格の高騰や円安により製造コストが増加する一方、激しい企業間競争のために製品への価格転嫁は進まず、また、消費者からは安心・安全な製品の提供に関してこれまで以上の高い信頼性が求められるなど、市場環境は依然として厳しいものとなりました。

このような状況のなかで、当グループは中期計画「SHOWA－ism（イズム）計画」に基づき、高付加価値製品の拡販や生産部門の再編などにより収益性の向上を図るとともに、製品の安心・安全の確保や、経営の透明性の向上に努めてまいりました。

これらの結果、当期における連結業績は、売上高は1,753億72百万円と、前期に比べ93億24百万円（5.0%）の減収となりましたが、経常利益は53億81百万円と、前期に比べ4億47百万円（9.1%）の増益となりました。また当期純利益は、特別利益に固定資産売却益を計上したことなどから32億4百万円と、前期に比べ8億59百万円（36.7%）の増益となりました。

今後の我が国経済は、米国経済や原油・為替相場の動向などの懸念材料もありますが、引き続き企業収益の向上や設備投資の増加により、景気の回復基調が続くものと思われます。

当グループといたしましては、平成18年4月より新中期計画「SHOWA－ism計画 06-08」を掲げ、前中期計画の成果と課題を踏まえ、引き続き経営方針である「収益性の向上」、「安心・安全・透明性の向上」、「社員の質的向上」を実現するべく、「改革の実現」、「経営基盤の強化」、「グループ経営の強化・向上」、「CSRの推進」の4つの基本姿勢に基づき経営を推進してまいります。

「改革の実現」については、過去の慣習、経験にとらわれることなく一人ひとりが積極的に改革を実行し、生産部門・管理部門における一層のコスト削減や東アジアにおいての業務拡大を目指します。また、厳しさの増す食品業界の現状に対応するため、生産設備への積極的な投資、販売量・売上高の回復、高付加価値商品の開発力向上、人材育成など、次世代に向けた「経営基盤の強化」に努めるとともに、経営面・技術面をはじめとした幅広い分野における「グループ経営の強化・向上」を図ります。

これらの施策により企業の競争力を高めると同時に、「CSRの推進」を掲げ、食育など食に関する社会貢献活動や、省エネ推進、エコ物流などの環境負荷軽減対策に積極的に取り組み、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」という昭和産業グループの経営理念を追求していく所存です。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成18年6月

事業別の状況

事業別売上高推移（単位：百万円）

事業別売上高構成比

食品事業

食品事業では、輸入穀物相場の下落による販売価格の低下や、食用油を中心とした販売数量の減少などにより、売上高は1,267億2百万円と前期に比べ80億81百万円（6.0%）の減収となりました。

■製粉部門

小麦粉は、きめ細かな営業活動を行いましたが、需要低迷が続き販売数量が減少しました。プレミックスは、新製品の投入やキャンペーンの実施により積極的な販売活動を展開したものの、販売数量は前期並みにとどまりました。ふすまは、輸入品が増加したことにより販売数量が減少したものの、穀物相場の高騰や円安の影響により、販売価格は堅調に推移しました。

これらの結果、売上高は362億60百万円（前期比2.4%減）となりました。

■油脂部門

食用油は、需要の低迷で相場が大きく値下がりする厳しい環境のなか、適正価格の維持に努めたため、全体の販売数量が減少しましたが、業務用プレミアム油脂においては、「フライシナジー」「プライムテイスト」シリーズの特徴を活かし、ユーザー業態別の提案営業による拡販を行った結果、前期並みの販売数量を確保することができました。業務用食材は、新製品「天ぷら職人」投入やユーザーの業態に応じた提案型営業により拡販を図りましたが、販売数量が若干減少しました。

これらの結果、売上高は364億97百万円（前期比10.9%減）となりました。

■ぶどう糖部門

糖化製品は、発泡酒の落ち込みにより水あめが不調に終ったため、全体の販売数量がやや減少しましたが、異性化糖については、砂糖価格の上昇により代替需要が喚起されたことを受けて販売数量が好調に推移しま

1,267億2百万円（前期比6.0%減）

した。乾燥でん粉の販売数量は、ビール向けが不調となり大幅に減少しました。
主原料であるとうもろこしは、シカゴ定期相場は安定していたものの為替の円安傾向により価格が上昇したため、製品価格の改定・維持に努めました。

これらの結果、売上高は265億12百万円（前期比0.1%減）とほぼ前期並みとなりました。

■家庭用食品部門

家庭用食品部門は、引き続き収益を重視した営業活動を行いました。食用油は、大容量サラダ油類の適正価格維持に努めると同時に、プレミアムオイル「オレインリッチ」の拡販を進めましたが、販売数量が減少しました。小麦粉加工品は、主力の天ぷら粉、お好み焼き粉、ホットケーキミックス等を年間販売計画に基づいた提案型の企画営業により拡販し、また、９月には「ケーキのようなホットケーキミックス」等のミックス類５品とパスタの新製品を投入するなど、シェアの拡大を図りました。家庭用小麦粉は、収益重視の営業を行ったため販売数量が減少しました。ギフトセットは、市場全体が縮小するなか、オレインリッチギフト等の食用油ギフトを中心に拡販に努め、販売数量を伸ばしました。また、昭産商事株式会社における家庭用米の販売数量も前期を上回りました。

これらの結果、売上高は244億86百万円（前期比10.2%減）となりました。

■冷凍食品部門

昭和冷凍食品株式会社における冷凍食品は、チキン関連の惣菜用商品の販売が鳥インフルエンザの影響で低迷しましたが、ラビオリ・たこ焼きなどのコンビニエンスストア向けスナック商品の販売が好調に推移しました。

これらの結果、売上高は29億46百万円（前期比1.8%増）となりました。

飼料事業

422億37百万円（前期比1.6%減）

配合飼料は、鳥インフルエンザの影響で下期には農場の飼育羽数が減少し、販売数量も減少しましたが、生産拠点の周辺地域を重視した効率的な営業活動に注力した結果、畜産物価格が堅調に推移したこともあり、販売損益は良化しました。また、畜産物の安全性が市場から求められるなか、当グループぶどう糖部門の技術を活かし、免疫向上機能をもつイソマルトオリゴ糖を配合した飼料の製造を目的とした「オリゴ糖加工センター」を新たに建設し、オリゴ糖飼料製品の拡販に努めた結果、販売数量は大幅に伸長しました。昭和鶏卵株式会社の鶏卵販売は期初における相場高騰の影響もあり、増収となりました。

これらの結果、売上高は422億37百万円と前期に比べ6億93百万円（1.6%）の減収となりました。

倉庫事業

36億23百万円（前期比6.2%増）

穀物サイロ関連では、他社との厳しい競争のなか、主要取引先の安定確保を目指して保管穀物の獲得に取り組み、また当グループの強みでもある全国有数の荷役能力を活かした営業活動を展開した結果、荷役量が伸び売上高が増収となりました。株式会社ショウレイにおける冷凍倉庫業務では、輸入貨物等の保管積数が前期に比べ増加したため、増収となりました。

これらの結果、売上高は36億23百万円と前期に比べ2億11百万円（6.2%）の増収となりました。

その他事業

28億8百万円（前期比21.3%減）

不動産関連では賃貸ビル等の賃料収入が前期を上回りましたが、当社旧札幌支店跡地で実施した分譲マンション事業が終了したこともあり減収となりました。

これらの結果、売上高は28億8百万円と前期に比べ7億60百万円（21.3%）の減収となりました。

（注）事業別の状況は、当期より「食品事業」「飼料事業」「倉庫事業」「その他事業」の４区分に変更いたしました。（従来は「食品事業」「飼料事業」「その他事業」の３区分）

回復から飛躍へ。新たに『SHOWA-ism計画

平成15年４月からの３ヵ年中期計画『SHOWA-ism（イズム）計画』が当期末で終了し、この４月からは、新たに『SHOWA-ism計画 06-08』がスタートしました。ここでは、前中期計画の取り組みと成果を総括し、新しい３ヵ年中期計画が目指すビジョンと目標をご説明します。

『SHOWA-ism（イズム）計画』（平成16年３月期～平成18年３月期）の取り組みと成果について。

『SHOWA-ism（イズム）計画』では、「収益性の向上」「安心・安全・透明性の向上」「社員の質的向上」の３点を経営方針とする取り組みを行ってまいりました。その具体的な目標と成果は下記の通りです。

【最終年度目標指標（単体ベース）】

- 売上高1,300億円
- 経常利益35億円
- 有利子負債額400億円以下
- １株当たり利益８円以上

【平成18年３月期実績（単体ベース）】

- 売上高1,146億円
- 経常利益44億円
- 有利子負債額339億円
- １株当たり利益10.79円

成果１　収益性の向上

利益管理（カテゴリー別採算管理）による集中と選択、高付加価値商品やシナジーを活かした販売体制の確立により、売上総利益率が22.4%（平成18年３月期：単体）にまで上昇。冷凍食品事業の黒字化と、飼料畜産事業の損益改善を果たす。

成果２　安心・安全・透明性の向上

製品法令・表示監視室の設置と、改善プロジェクトおよび生産の安全を推進するチームを編成。製品に関する課題の洗い出しと改善、生産部門の安心・安全対策の徹底化を実施。コンプライアンス委員会を設置し、全社員による活動を推進。

成果３　社員の質的向上

昭和塾、昭和テクノスクールの設置による月例講義や、全社員が参加する「全員総会」の年次開催により、社員教育および対話を充実。従業員意識調査「エンゲージメント・サーベイ」のスコア改善を推進し、社員の会社とともに成長発展したいという意欲が向上。

『SHOWA-ism計画 06-08』のビジョンと目標（平成19年３月期～平成21年３月期）

『SHOWA-ism計画 06-08』では、平成18年４月を起点とする３ヵ年にわたり、引き続き「収益性の向上」「安心・安全・透明性の向上」「社員の質的向上」の３点を経営方針として、４つの基本姿勢に基づく取り組みを推進します。

少子高齢化やグローバル競争の激化など、ますます厳しくなる食品業界の状況に対応し、経営基盤の強化と新たな飛躍を目指す中期計画として、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」という経営理念を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、この新たな中期経営計画による成果にご期待いただき、当社事業に一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

06-08』をスタート。

ビジョン：お客様にとっての「ベストパートナー」となる	
基本方針	個別施策
改革の実現	**①生産部門を中心としたコスト削減** コスト削減10億円（平成18年３月期対比平成21年３月期目標） 業務の単純化、標準化、社員の多能化推進による効率化 **②管理部門等におけるコスト削減** コスト削減キャンペーンによる合理化、戦略的投資による内部統制の充実、業務効率向上 **③東アジアへの拡大** 中国プレミックス事業、タイでん粉事業などアジア施策を拡大
経営基盤の強化	**①設備投資の強化** 食の安心・安全や、機能性に優れた食品の提供、生産効率向上 **②売上高・販売量の伸長** シナジーを活かした商品開発を強化し、顧客への提案頻度を高める **③開発力の強化** 酵素、微生物を利用した発酵技術による機能性食材の開発を強化し、高付加価値商品分野に注力 **④人材育成** 昭和塾、昭和テクノスクールを充実し、継続的に実施
グループ経営の強化・向上	生産体制、品質、管理業務、人材教育など、幅広い面で昭和産業グループ全体の支援および協力体制を強化
企業の社会的責任（CSR）の推進	**①食品メーカーとしての社会貢献推進** 食の品質向上や、食育など食に関する社会貢献活動を積極化 **②環境対策** 省エネ推進、エコ物流などの環境負荷低減策への積極的な取り組み **③従業員への取り組み** ステークホルダーとしての従業員への取り組みを強化し、社会貢献を積極的に推進する企業風土を醸成

数　値　目　標

売上高

経常利益

経常利益率

News & Topics 食卓にニューフェイス登場

平成18年３月１日より、春の家庭用新製品（７品目、リニューアル品含む）の発売が開始されました。
おいしさと作る楽しみをご家庭にお届けし、好評をいただいています。
ここでは代表的な３製品について詳しくご紹介します。
人気商品のちょっとしたエピソードを、買い物や食事のひとときの話題にどうぞ。

焼きたてサクサク メロンパン用ミックス

「子どものおやつには、成長や健康を考えて、できれば手作りのものを食べさせたい」「一緒に手作りを楽しみたい」という、お母さま方のニーズに応え、手軽に焼きたての味を楽しめるメロンパン用ミックスが登場。

内容量：260g（130g×２袋）
希望小売価格：220円(税別)

製品なるほど情報！

▶たった40分で楽しめる焼きたての味

バターと卵を加えて混ぜ、生地をのばして市販のロールパンを包んで焼くだけで、人気の焼きたてメロンパン屋の味と食感が、家庭で手軽に楽しめます。所要時間はわずか40分。当製品１袋（130g）で、サクサク焼きたてメロンパンが６個作れます。

▶自由なアレンジで、楽しみ倍増

生地にココアやチョコチップ、ナッツを加えたり、食パンやレーズンロールパンに生地をのせたりして焼けば、おいしさと楽しさがさらにアップ！おやつやお食事にもぴったりです。

フライパンでできる カツ揚げ粉

手作りの揚げ物は家庭の人気メニュー。でも主婦にとっては、「フライの衣付けが面倒」「油はねでキッチンが汚れる」「たくさんの油を用意するのが面倒」「後片付けが大変」と一苦労。こうした不満の声に応える製品が登場しました。

内容量：120g
希望小売価格：140円（税別）

フライパンでできるから揚げ粉 ～韓国キムチ風～

最近のファーストフードや惣菜などでは、第三次激辛ブームと言われ、辛口メニューが人気。家庭でもキムチ鍋などが楽しまれています。ピリッとした辛さのから揚げを、フライパンで簡単に作れるから揚げ粉が発売されました。

内容量：80g
希望小売価格：130円（税別）

！家庭用新製品を発売。

●商品に関するお問い合わせ先●
お客様相談センター
0120-325-706
受付時間：平日午前9時から午後5時まで

製品なるほど情報！

▶少ない油で、サクッとジューシー

フライパンを使って、わずか１～２cmの少ない油で揚げられるので後片付けが簡単。お弁当用に少しだけ作りたいときにもピッタリです。しかも、少ない油でも旨みを逃さず、サクッとジューシーに揚がるように工夫しました。

▶衣付け手間なし簡単

下味（塩・こしょう）・小麦粉・卵付けの３つの手間が１つになっているので、フライの衣付けがとっても簡単。塩、こしょうを基本に、素材の味をひきたてるシンプルな味付けにチーズやチキンエキスでコクを出しました。

製品なるほど情報！

▶手軽に作って食べて

大人から子どもまで人気のあるから揚げ料理。水に溶いて肉にからめるだけで、味付けも衣付けも一度にできます。フライパンを使い、少量の油で揚げられるので、後片付けも簡単です。

▶刺激的な辛さと旨さ

にんにく、韓国産唐辛子などの香辛料に、キムチ風調味料を加えた刺激的な辛さは、ビール等のおつまみにピッタリ。ふだんのから揚げとは一味違うおいしさをお届けします。

ジャズシンガーの綾戸智絵さんが当社イメージキャラクターに

平成17年放映の「オレインリッチ」のCMには、ジャズシンガー綾戸智絵さんの作詞・作曲によるオリジナル楽曲『The Day Around』を使用し、評判となりました。綾戸さんは、音楽活動だけでなくドラマやトーク番組などテレビ出演も数多く、主婦を中心として老若男女の枠を超えた広範な層からの好感を得ています。
当社は、綾戸さんを当社の企業理念を広告展開で発信するにふさわしいパーソナリティを備えていると考え、平成18年よりイメージキャラクターとして起用しました。綾戸さんは、この春から放映している「オレインリッチ」の新CMに出演、その他雑誌等の広告にも随時登場して、当社製品の効果的なPR展開を行ってまいります。

【綾戸智絵さん プロフィール】
昭和32年９月10日生まれ、大阪府出身。
平成10年　「FOR ALL WE KNOW」でアルバムデビュー。以来、ライブ中心に活動。
平成13年　芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。
平成15年　紅白歌合戦に出演し、「テネシーワルツ」を熱唱。
平成16年　ＮＨＫ朝の連続ドラマ「わかば」出演。役者としても高い評価を得る。
平成17年　ＮＨＫ「音楽・夢くらぶ」「日曜スタジオパーク」、日本テレビ「24時間テレビ」、テレビ朝日「徹子の部屋」等、テレビ出演多数。

鹿島アントラーズ 対 FC東京「2005 SHOWA-SANGYOエキサイトマッチ」開催。

当社は、Jリーグ創設当初より、オフィシャルスポンサーとして鹿島アントラーズを応援しております。
平成17年11月12日に行われた鹿島アントラーズ 対 FC東京では、当社がマッチスポンサーとして「昭和産業エキサイトマッチ」を実施いたしました。
試合に先立ち、当社代表取締役社長 福井茂雄が主審に花束、両チームキャプテンに「オレインリッチ」（パネル）、「天ぷら大サクッ戦！」（パネル）を贈呈し、記念撮影を行いました。また、小学生以下の来場者にはオリジナル缶バッジをプレゼントし、試合前には、スタジアム内にいるファンへ、各選手のサインボールのプレゼントを実施しました。
試合は１-１の引き分けに終わりましたが、「エキサイトマッチ」の名にふさわしい白熱した試合となりました。最も活躍した選手へのMIP賞として、得点を決めた岩政選手に「昭和産業商品詰め合わせセット」が当社常務取締役 金澤多計志より進呈されました。
当社は、今後とも鹿島アントラーズへのサポートとともに、こうしたイベントの開催を通じて、地域、社会との結び付きを強めていきたいと考えております。

誌上工場見学…パスタ工場編

品質へのこだわりを究めたSHOWAの食品づくり。原料が製品になるまでの過程を、千葉県船橋市の船橋工場からお伝えします。今回ご案内するのはパスタ工場。SHOWAのスパゲッティ、マカロニ製品には、デュラム小麦を粗引きにしたセモリナを使用しています。デュラム小麦は、たんぱく質（グルテン）含有が豊富で伸展性に富み、パスタに適した品種なのです。

1 デュラム小麦のセモリナを生地に《ミキシング》

デュラム小麦のセモリナに適度に水を加えてミキサーで練り、生地を作ります。

▲ミキサー

2 生地をさまざまな形に《プレス》

できあがった生地はプレス機に送られ、ダイスと呼ばれるノズルから押し出されます。生地をダイスから押し出す圧力は大気圧の80倍以上、すなわち１平方センチメートルあたり80kg（7840kPa）ものパワーです。ダイスの穴の大きさや形で、さまざまな形や太さのパスタ製品ができます。

◀プレス機（スパゲッティ）

▲ダイス（スパゲッティ用）

▲プレス機（マカロニ）

3 生地をじっくり乾かす《乾燥》

押し出された生地は2段階で乾燥されます。
まずは、予備乾燥機により最初の約1時間で中程度まで乾燥。次に、本乾燥機が生地を6〜7時間かけて乾燥させます。スパゲッティはステッキにかけて、マカロニはナイロン製コンベヤ上で乾燥されます。

▲乾燥機

4 冷却し、品質を安定化《調質》

乾燥が終わったスパゲッティやマカロニは、クーリングセクションで常温まで冷やします。冷却後は、調質サイロといわれる専用のサイロに入れて品質を安定させます。

5 いよいよ出荷《包装》

金属探知機▶

完成したスパゲッティはステッキから外され、ストリッピングマシンによって一定の長さに切断。その後、自動包装機によって包装し、重量や異物の混入をチェックした後に、商品として出荷されます。
SHOWAのパスタ工場では、原料の品質確認だけではなく、製造の途中でもシフター（ふるい機）等により異物の混入がないことをチェックしていますが、最終的な包装段階には金属探知機も設置し、製品の安全性を確保。高品質な製品とともに、安全・安心をお届けしているのです。

連結財務諸表

●連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当期末 平成18年3月31日現在	前期末 平成17年3月31日現在
資産の部		
流動資産	**45,371**	46,479
固定資産	**96,521**	90,701
有形固定資産	**76,014**	74,099
無形固定資産	**450**	402
投資その他の資産	**20,056**	16,199
資産合計	**141,892**	137,180
負債の部		
流動負債	**57,610**	59,515
固定負債	**31,863**	29,590
負債合計	**89,474**	89,106
少数株主持分		
少数株主持分	**975**	1,321
資本の部		
資本金	**12,778**	12,778
資本剰余金	**9,007**	9,007
利益剰余金	**23,757**	21,816
その他有価証券評価差額金	**5,947**	3,178
自己株式	**△ 47**	△ 26
資本合計	**51,442**	46,753
負債、少数株主持分及び資本合計	**141,892**	137,180

（百万円未満は切捨表示しております。）

●連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	当　期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	前　期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
売上高	**175,372**	184,696
売上原価	**141,070**	150,322
売上総利益	**34,301**	34,373
販売費及び一般管理費	**28,484**	28,915
営業利益	**5,816**	5,457
営業外収益	**1,117**	920
営業外費用	**1,553**	1,445
経常利益	**5,381**	4,933
特別利益	**1,374**	643
特別損失	**1,913**	1,402
税金等調整前当期純利益	**4,842**	4,174
法人税、住民税及び事業税	**1,357**	1,993
法人税等調整額	**262**	△ 253
少数株主利益	**17**	89
当期純利益	**3,204**	2,344

（百万円未満は切捨表示しております。）

●連結剰余金計算書

（単位：百万円）

科目	当　期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	前　期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	**9,007**	9,007
資本剰余金増加高	**—**	—
資本剰余金期末残高	**9,007**	9,007
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	**21,816**	20,587
利益剰余金増加高	**3,204**	2,344
利益剰余金減少高	**1,263**	1,115
利益剰余金期末残高	**23,757**	21,816

（百万円未満は切捨表示しております。）

●連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	当　期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	前　期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	**8,959**	7,540
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 5,087**	△ 376
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 3,269**	△ 8,615
現金及び現金同等物の増減額	**602**	△ 1,452
現金及び現金同等物の期首残高	**3,610**	5,062
現金及び現金同等物の期末残高	**4,213**	3,610

（百万円未満は切捨表示しております。）

個別財務諸表

●貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当期末 平成18年3月31日現在	前期末 平成17年3月31日現在
資産の部		
流動資産	**32,316**	33,017
固定資産	**78,426**	74,092
有形固定資産	**58,703**	58,197
無形固定資産	**304**	306
投資その他の資産	**19,418**	15,587
資産合計	**110,742**	107,109
負債の部		
流動負債	**36,648**	39,650
固定負債	**23,684**	20,450
負債合計	**60,332**	60,100
資本の部		
資本金	**12,778**	12,778
資本剰余金	**9,007**	9,007
利益剰余金	**22,803**	22,120
その他有価証券評価差額金	**5,867**	3,129
自己株式	**△ 47**	△ 26
資本合計	**50,409**	47,008
負債及び資本合計	**110,742**	107,109

（百万円未満は切捨表示しております。）

●損益計算書

（単位：百万円）

科目	当　期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	前　期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
売上高	**114,663**	123,521
売上原価	**88,997**	97,628
売上総利益	**25,665**	25,892
販売費及び一般管理費	**20,964**	21,281
営業利益	**4,701**	4,611
営業外収益	**982**	747
営業外費用	**1,264**	1,155
経常利益	**4,419**	4,202
特別利益	**1,350**	616
特別損失	**2,410**	981
税引前当期純利益	**3,359**	3,838
法人税、住民税及び事業税	**1,114**	1,748
法人税等調整額	**297**	△ 209
当期純利益	**1,947**	2,300
前期繰越利益	**2,085**	3,738
当期未処分利益	**4,032**	6,039

（百万円未満は切捨表示しております。）

●利益処分

（単位：百万円）

科目	当　期
当期未処分利益	4,032
固定資産圧縮積立金取崩額	301
計	4,334
これを次のとおり処分します	
株主配当金	1,082
	（1株につき6円）
買換資産圧縮記帳特別勘定積立金	546
計	1,629
次期繰越利益	2,704

（百万円未満は切捨表示しております。）

（注）固定資産圧縮積立金及び買換資産圧縮記帳特別勘定積立金は、租税特別措置法の規定に基づくものであります。

会社の概要（平成18年3月31日現在）

■**設立**　昭和11年2月18日
■**資本金**　12,778,008,177円
■**従業員数**　1,056名
■**本社所在地**　〒101-8521
東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉河岸ビル

■**事業所**
大阪支店／名古屋支店／仙台支店／札幌支店
福岡支店／広島支店／太田支店／千葉出張所
南九州出張所／鹿島工場／神戸工場／船橋工場
総合研究所／食品開発センター
「太田支店」は、平成18年4月1日をもって「関東信越支店」に名称変更いたしました。

■**役員（平成18年6月29日現在）**

● **取締役および監査役**

取締役社長（代表取締役）	福井茂雄
専務取締役（代表取締役）	横澤正克
専務取締役	栗原忠夫
常務取締役	江口寛
常務取締役	金澤多計志
監査役（常勤）	金吉誠之
監査役（常勤）	細川純治
監査役	鈴木孝雄
監査役	中台好弘

● **執行役員**

常務執行役員	信岡正治
常務執行役員	御法川修
執行役員	石居義生
執行役員	田中富男
執行役員	佐久間潤
執行役員	小川敏郎
執行役員	岡田茂
執行役員	四宮哲爾
執行役員	村井眞哉
執行役員	笠井敏雄

■**グループの概要**

●連結子会社　●非連結子会社　●持分法適用会社
➡製品および役務の流れを示しております。

株式情報（平成18年3月31日現在）

■株式の状況

会社が発行する株式の総数	720,000,000株
発行済株式の総数	180,649,898株
株主数	19,150名

■大株主（上位10名）

株　主　名	所有株数	出資比率
伊藤忠食糧販売株式会社	17,372,000株	9.6%
双日株式会社	11,525,016	6.4
日本興亜損害保険株式会社	8,545,501	4.7
株式会社千葉銀行	7,875,528	4.4
三井物産株式会社	7,700,000	4.3
農林中央金庫	5,515,396	3.1
東京海上日動火災保険株式会社	5,169,328	2.9
ユアサ・フナショク株式会社	5,134,600	2.8
株式会社カーギルジャパン	4,701,000	2.6
株式会社みずほ銀行	4,596,582	2.5

（注）上記双日株式会社の所有株数には、株主名簿上は名義書換未完了のため日商岩井株式会社名義となっているものの、実質的には双日株式会社が保有している株式が含まれております。

■所有者別株式分布状況

■株価と出来高の推移

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
公告の方法	日本経済新聞に掲載
基準日	3月31日
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社　各支店 野村證券株式会社　本店・支店

○株式関係のお手続用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。
0120-244-479（本店証券代行部）
0120-684-479（大阪支店証券代行部）
http://www.tr.mufg.jp/daikou/

1単元の株式数	1,000株

株主優待制度のお知らせ

当社では、株主様へのご優待サービスとして、年１回、自社製品をお送りしております。ご家庭の食卓で「日本をおいしくするSHOWA」の味をお楽しみください。

◆対象は毎年基準日（3月31日）時点で、1,000株以上保有の株主様に対し、自社製品を以下の基準により贈呈いたします。

◆お届けは毎年７月上旬になります。

● 1,000株以上5,000株未満保有の株主様
→2,000円相当の自社製品を贈呈。

● 5,000株以上保有の株主様
→5,000円相当の自社製品を贈呈。

昭和産業株式会社
〒101-8521　東京都千代田区内神田2丁目2番1号　鎌倉河岸ビル
TEL.　03（3257）2011　FAX.　03（3257）2180
http://www.showa-sangyo.co.jp/

R100　PRINTED WITH SOY INK
本事業報告書は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、「大豆インク」で印刷しています。